

## 議決権行使レポート

証券コード 5821

会社名 平河ヒューテック株式会社

	賛成	反対	棄権
第1号議案 取締役及び6名選任			
隅田 和夫氏	○		
篠 祐一氏	○		
目黒 裕次氏	○		
湯佐 富治氏	○		
沼田 恵氏	○		
第2号議案 補欠監査役1名専任の件			
石崎 修久氏	○		

### 上記の推奨をした理由

#### ・第一号議案

第一号議案の議題は、取締役5人选任の件である。また今回の5人は全て再任である。今回の選任に関して自分が注目したポイントは以下の3つである。

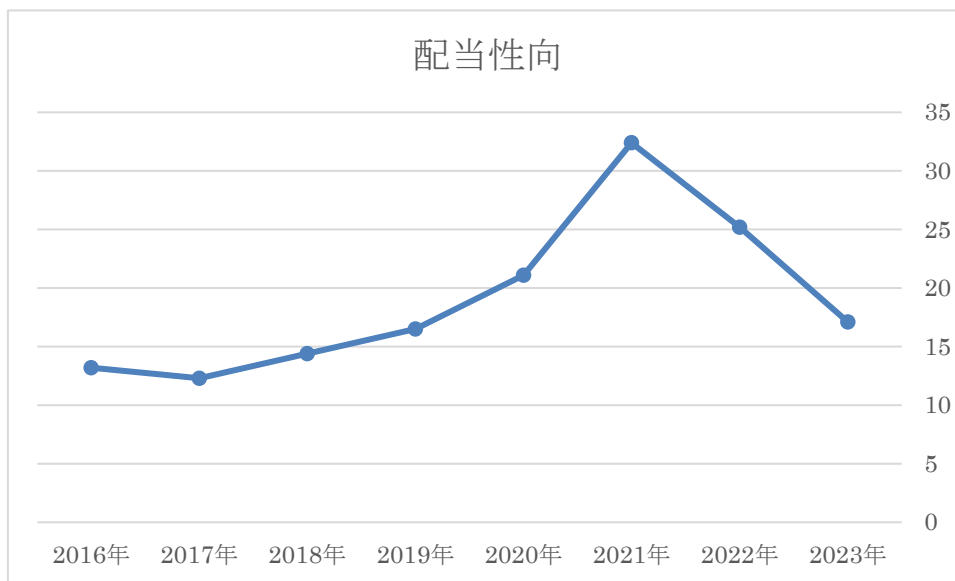
- I) 配当性向
- II) 流動比率
- III) 株価純資産倍率

I) の配当性向はこの平河ヒューテックのが、売上をどのくらいの比率で株主に還元しているかを示す指標であり、この指標によりこの会社に対する今後の株主たちの動きが見えるので採用した。

II) の流動比率はこの会社の1年以内の倒産可能性が見える。即ちその会社が今までどのくらい健全な営業を行ってきたかが分かる。この指標によって今までの経営陣の経営手腕がわかるとともにその再任尾認められるか否かがわかるので採用した。

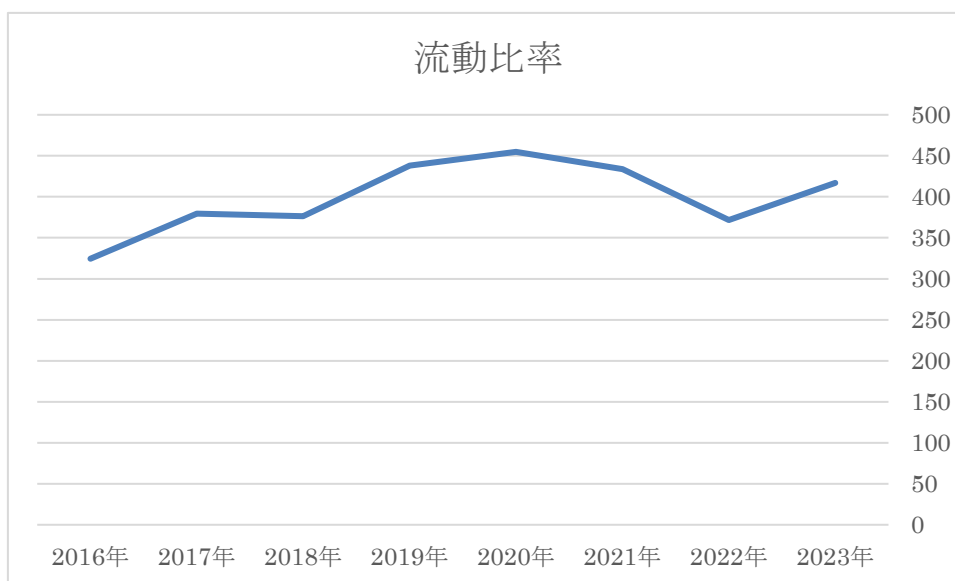
III) の株価純資産倍率はこの会社の純資産に対する株価即ち市場評価の高さを表している。今後のこの会社への投資可能性を見るためにこの指標を採用した。

- I) 配当性向



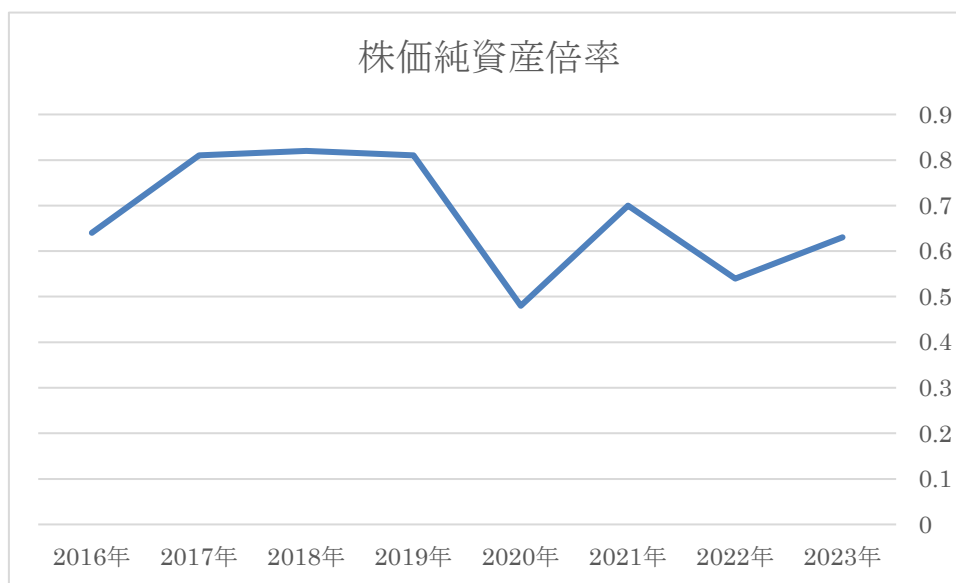
このグラフによると同社の配当性向は 2021 年のコロナ流行中に最高を記録してから下がり続けている。しかし、コロナ以前とコロナ中盤期の配当性向即ち 2021 年までのデータを見てみると、配当性向は上がり続けている。現在の経営陣の取締役を見てみると全員コロナ以前から勤めており特に篠氏と目黒氏の経歴に注目してみると彼らは 2017 年から現職についておりその手腕によるところもあると評価できる。従って現在の配当性向の下落は確かに著しいものがあるがそれでも今の時点では 2019 年と同じ水準であり、これからがアフターコロナの時期で産業が復活してくる時期であるということを鑑みるとここ 2 年の下落だけに目をつけ再任する経営陣に対して反対票を投じるのは時期尚早であると感じる。

## II) 流動比率



このグラフに基づく流動比率はコロナ禍に入った後も非常に安定しており1~2年以内の倒産確率もとても低いように思われる。従って会社の経営において不安な部分というのもあまり見られないので現在の経営陣の今までの手腕に疑問は残らないだろう。

### III) 株価純資産倍率



このグラフに基づく2019年までは1倍を切っていないながらも安定していた株価純資産倍率は2020年から不安定な状態へと陥っている。しかしこれは新型コロナウイルスの蔓延の影響の時期と重なっており、日本全体の経済が停滞していたという事実も鑑みると、経営陣の落ち度は認められないと思われる。事実コロナ以前の2017~2019年までは安定した指標を出し続けており経営陣の手腕に疑いの余地はあまりないことが伺えるので、今後のアフターコロナでこの水準を1倍以上に持っていくこともできるのではないかと思う。

以上 I) ~III)より第一号議案である取締役6人の選任には全て賛成票を投じる。

#### ・第二号議案

第二号議案の議題は補欠監査役1名の選任についてだ。ここで今回推任されている石崎氏の経歴を見てみると1980年に大和銀行（現りそな銀行）に入行後、2005年に寺岡製作所に移り入社している。ここで寺岡製作所の事業内容について見ると、日用から業務用、更には電子部品などにも使われる粘着テープを販売する会社であり上場企業である。石崎氏は同社の管理部門を歴任していたこと、銀行勤務として金融部門へも精通しているという点、同役職に就任してからあまり年月が経ってお

らず平河ヒューテックとの癒着の危険性も少ないという以上3点より賛成票を投じる。

**【参考文献】**

平河ヒューテック公式 HP <https://www.hewtech.co.jp/>

IR バンク 平河ヒューテック <https://irbank.net/5821>

寺岡製作所公式 HP <https://www.teraokatape.co.jp/>